弱点だけに注目してそこを改善するだけでなく，個々にある強さに気づき，そこを敬い尊び，認めることで，養育者の有能感は効能感が高まり，養育の関係性を主体的によりよくすることが出来ると思われる。

E. 平成 22 年度の予定

①今年度の全結果を統計的に検討し，保護者自己記入式調査票の決定版を作成する。

特に，養育者の抱えるリスクの算出とケース検討による支援の指針の提示を目指す。

②各自治体で結果検討とミニ研修会を行い，その有効性について確認する。

③平成 22 年度の追跡調査を可能とする自治体と連動し，縦断的な有効性を検討する。

最終的には，調査表の試用マニュアルや事例集を公表していきたいが，影響力の大きなものであると理解しており，最低 3 年以上の縦断的検討を行うべきであろうと考え，さらに研究助成を申請し，実施自治体を全国に展開し，実施事例を収集，養育者の追跡調査を実施したい。そのような大規模調査の結果から，健診ツールの試用マニュアルおよび事例集の作成することを最終目標としたい。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

川俣智路　2009　三歳児健診における自己記入式の養育者ストレスチェックシートの試作と検討　日本児童青年精神医学会第 50 回総会　口頭発表

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定　を含む）

最終的には，本健診ツールに対する，知的所有権を明らかにしたいと思っている。

Ⅱ．参考資料

資料1

健診評価尺度保護者用　試作版項目一覧（実際のものの縮約版）

まずあなた自身のこと，お子さんのこと，生活の状況などについてお尋ねします。該当する項目に対してはマルを，あるいは直接ご記入願います。

01	**今日健診を受けるお子さん**の性別を○で囲んでください。複数いらっしゃる場合には，余白にそのようにご記入願います。	男・女

02	あなたのお立場を1．から7．の中から選び、当てはまるものを1つ○で囲んでください。7．に関してはカッコ内に具体的にご記入願います。またその右の枠に現時点での年齢をご記入願います。	
	1. 母 2. 父 3. 母方の祖父 4. 母方の祖母 5. 父方の祖父 6. 父方の祖母 7. その他（　　）	現在のあなた自身のご年齢 ＿＿＿＿歳
03	お子さんが現在生活している家庭の家族構成を教えてください。同居している方を**全て○で囲み，**必要があれば具体的にご記入下さい。下の選択肢はすべてお子さんからの立場となっております。兄弟姉妹は今日健診を受けたお子さん以外で，**それぞれ年齢を**ご記入願います。	
	1. 母 2. 父 3. 母方の祖父 4. 母方の祖母 5. 父方の祖父 6. 父方の祖母 7. 兄（　歳，　歳，　歳） 8. 姉（　歳，　歳，　歳） 9. 弟（　歳，　歳，　歳） 10. 妹（　歳，　歳，　歳） 11. 親　戚（　　） 12. その他（　　）	

04	この地域に居住している期間はどれくらいですか。細かくわからない場合には年数だけの記入でも構いません。	年　　ヶ月

05	同居するご家族の方に，生活をする上で障害や認知症などの理由から，特別なお世話を必要とされる方がいますか。	いる・いない

06	お子さんは保育所や幼稚園を利用していますか。当てはまるものを<u>1つ</u>選んで下さい。 1. 保育所 2. 幼稚園 3. 利用していない 4. その他（　　）

07	これまで<u>出産前</u>に以下に示す教室に<u>ご家族のどなたかが</u>参加したことがありますか。参加したことのあるものの数字を〇で囲み、続けてそれに参加した人を〇で囲んでください。 必要があれば具体的にご記入願います（複数回答可）。 1. プレママ教室・食事や日常生活に関する教室（「母親教室」，「マタニティクッキング」，「働くママの母親教室」，「35 歳からの子育て教室」など） （母親，父親，その他（　　）） 2 父親や両親を対象とした教室（「父親教室」など） （母親，父親，その他（　　）） 3. その他（　　） （母親，父親，その他（　　）） 4. 特に利用したことはない

08	これまで出産後に以下に示す教室にご家族のどなたかが参加したことがありますか。参加したことのあるものの数字を○で囲み、続けてそれに参加した人を○で囲んでください。 必要があれば具体的にご記入願います(複数回答可)。 1. 親子教室(「健康相談」,「すくすく7ヶ月児育児相談」,「のびのび2歳児歯と育児の相談」など) (母親, 父親, その他(　　)) 2. 集団活動、遊びのサークル(「母親教室ミニ同窓会」,「2歳児ニコニコ子育て教室」など) (母親, 父親, その他(　　)) 3 離乳食や虫歯予防に関する教室(「離乳食講習会」,「1歳児の食事と歯の教室」など) (母親, 父親, その他(　　)) 4 その他(　　) (母親, 父親, その他(　　)) 5 特に利用したことはない

次にあなた自身の物事への考え方についてお尋ねします。質問に対してどれぐらいそう思うかを考え，該当箇所に○を記入してください。

記入例	私は優しい人間だ。 全然思わない――――――――――――――――――――――――――――――――とても思う 1――――2――――◎――――4――――5――――6――――7 当てはまるものに○を記入

――――――――――――ここから下が質問になります――――――――――――

09	**私はなにか悪いことが起きたら、それは自分のせいと思う方である。** 自分のせいと思う――――――――――――――――――――――――――――――――他人のせいと思う 1――――2――――3――――4――――5――――6――――7
10	**私は、なにか問題が起こると、問題解決に立ち向かっていくほうである。** 問題解決に立ち向かう――――――――――――――――――――――――――――――問題が過ぎ去るのを待つ 1――――2――――3――――4――――5――――6――――7
11	**私はなにか問題が起きた時、周囲の助けを借りるのが上手だと思う。** 下手だと思う――――――――――――――――――――――――――――――――上手だと思う 1――――2――――3――――4――――5――――6――――7

12	**私は、なにか気にかかることがあると、いつまでも気にかけてしまうほうだ。** いつまでも気にする――――――――――――――――――――――――――――――――――――すぐ気持ちを切り替えられる 1――――――2――――――3――――――4――――――5――――――6――――――7
13	**私は、私自身について人に言われたことを気にしてしまうほうだ。** 気にならない――気にしてしまう 1――――――2――――――3――――――4――――――5――――――6――――――7

次に，現在保護者の方が感じられているお子様の状況についてお尋ねします。該当する項目に対して，横の欄に○をご記入願います。

		○の記入欄
14	子どもがおとなしいと感じる	
15	気が散りやすくてひとつの遊びに集中できない	
16	知らない物や場所になかなか慣れず、慣れるのに時間がかかる	
17	意味がわからない音や叫び声（ウゥーとうなる，キイキイする）を出したりすることがある	
18	絶えず動き回っていて、落ち着きがない	
19	人の話を集中して聞けないことが多い	
20	目にはいったものだけにとらわれてしまい，他の人がそれで遊んでいても，つい奪い取ってしまうことがある	
21	遊びなどの場面で，自分の順番がなかなか待てない	
22	初めての人になじみにくい（人見知りなど）	
23	日常生活の中で，不器用だと感じる場面がある	

子育ての状況についてお感じになっていることをお尋ねします。該当する項目に○をご記入願います。

24	子育てを背負わされていると感じる	
25	地域の中で暮らしにくい面があり，子育てに不安を抱えている	
26	子育てを行う上で，経済的に苦しい	
27	今日の健診で，子どものことをきちんと見てもらえるか心配である	
28	自分の子どもと他の子どもを比較しても意味があるとは思えない	
29	子育てに時間をとられ，自由な時間がない	
30	今日の健診で，子どもについて何か言われるのではないかと不安である	
31	育児について，身内や知り合いから干渉される必要はないと思う	
32	育児について健診スタッフ，心理士，医者から干渉される必要はないと思う	
33	子育てを手伝ってくれる人が身近にいない	

34	今日の健診の内容の一部，または全部について事前に尋ねたり，調べたりしている	
35	今日の健診で子どもがすることについて，事前に家庭で練習をしてきた	
36	他の子と自分の子の成長を比べてしまう	
37	地域で経済面のことを相談できる場所や専門家にどういうものがあるかわからない	
38	地域で子育てを援助する制度や場所についてどういうものがあるかわからない	
39	家族の問題について相談できる場所や専門家にどういったものがあるかわからない	
40	子どもや子育てについて気になる点を，健診スタッフに聞きたい	
41	子どもの成長に不安がある	
42	子育てについての悩みを相談する相手がいない	
43	今日の健診で，子どもが普段の力を発揮してくれるかが不安だ	
44	今日の健診で，子育てについて問題を指摘されるのではないか心配である	
45	子どもをしかるときにたたいたり，つねったりすることがある	
46	自分の子どもと何となく気が合わない、と思うときがある	
47	自分の子どもをだっこしたり、手をつないだりすることが多い	
48	天気のよい日は、外に遊びに行くことが多い	
49	子どもが泣いたりぐずったりする時の理由がだいたいわかる	
50	子どもと一緒にいると楽しい	
51	配偶者が、子どもとよく遊んでいる	
52	配偶者が家事をしてくれることがある	

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

資料2

健診評価尺度保健師用　試作版項目一覧（実際のものの縮約版）

この保護者を担当した（複数の場合には事後指導担当者）保健師さんにお尋ねします

	この保護者の方の番号の記入をお願いします。	Ｎｏ．

53	保護者の問診中の様子はどのような印象でしたか。当てはまるものを１つ○で囲んでください。 熱心ではなかった――――――――――――――――――――――――――――――――とても熱心だった 1――――2――――3――――4――――5――――6――――7	
54	待機している間，問診中などの時に保護者は子どもに関心を向けていましたか。 きにかけていない――――――――――――――――――――――――――――――――気にかけていた 1――――2――――3――――4――――5――――6――――7	
55	今までに保護者が来所，訪問，電話などによって時間を別個に設け，個人相談を実施したことがありますか。あるいは，健診・訪問事業・集団活動などの際に通常の時間枠を超えて相談を実施する必要があることがあったでしょうか。わかる範囲で結構ですので、当てはまるものを全て○で囲んでください。 1. 産前に来所，訪問，電話などで個人相談を受けたことがある 2. 産後に来所，訪問，電話などで個人相談を受けたことがある 3. 特にない，またはわからない	
56	保護者は現在生活保護などの経済的支援を受けていますか。	**はい・いいえ・わからない**
57	保護者との関係に関して，当てはまるものを全て選んで○で囲んでください。 1. 出生時より関わりがあり、よく知っている 2. 以前に健診や相談などで電話で話したり，直接会っている 3. 事前に健診用の資料以外に、打ち合わせ、カンファレンスなどで情報を得たり、対応を相談している 4. 今日の健診が初対面であり、特に健診用の資料以外の情報はない	

58	健診の結果について，当てはまるもの全てを○で囲んでください。 Ａ１：異常なし Ａ２：異常はないが，今後本人や家族と連絡を取る機会に状況を確認する Ｂ：要精検身体　　Ｃ：要精検精神 Ｄ：要経過観察身体　　Ｅ：要経過観察精神 Ｆ：要経過観察両面　　Ｇ：要経過観察育児 Ｈ：要指導身体　　Ｉ：要指導精神　　Ｊ：要指導両面　　Ｋ：要指導育児 Ｌ：発達障害の疑い有り　　Ｍ：虐待の疑い有り　　Ｎ：専門機関で対応済 Ｏ：その他（　　）
59	対応について当てはまるものを全て選んでください。 Ａ０：特になし Ａ：後日電話　　Ｂ：後日訪問 Ａ１：後日別の用件で電話する際に状況を確認 Ｂ１：後日別の用件で訪問する際に状況を確認 Ｂ２：後日別の用件で本人，または家族が来所する際に状況を確認 Ｃ：後日来所時に指導　　Ｄ：後日来所して相談 Ｅ：育児教室などを推薦 Ｆ：当日発達相談を実施　　Ｇ：後日発達相談を実施 Ｈ：他機関に連絡・紹介（下の連絡先機関に○をしてください） （発達支援センター等，児童相談所，福祉相談機関，医療機関，幼稚園，保育所，その他） Ｉ：その他（　　）

資料3

日付	番号	結果 （番号）	対応 （番号）	追跡
091021	01	D	A	（例）その後保健センターに保護者の方が 子育て相談を希望して来所
	02			
	03			
	04			
	05			
	06			
	07			
	08			
	09			
	10			

資料4

平成21年度研究者向け研究成果発表会
2010.02.03 戸山サンライズ

養育に困難を抱える保護者を支援することのできる健診評価尺度（保護者自己記入式調査票）の開発に関する研究

（H20-障害-一般-007）

研究代表
田中康雄（北海道大学大学院）
共同研究者
松田康子・金井優実子・内田雅志・久蔵孝幸・福間麻紀・川俣智路・伊藤真理
（北海道大学大学院）
木村陽一・西田佳史
（産業技術総合研究所）

Research and Clinical Center for Child Development

研究動機（1）

- 乳幼児健診に参加する前に，健診項目を子どもに予習させる保護者が増えてきたが…
  - 発達障害が疑われる事への強い不安があるのだろう・・
  - 精度の高い健診ツールでの結果を，拒否する保護者が多い・・
- 後に発達障害があることが指摘された子どもの保護者のほとんどは，３歳前後に，すでにわが子がどことなく他の子どもたちと違う育ちをしていることを自覚しているが…
  - 保護者の気づきは比較的早い。しかし診断を求める時期は遅い・・・
- ５歳児健診を全国展開してほしいという要望を健診に関わるスタッフから聞くが・・
  - ５歳児健診を実施するだけでなく，３歳児健診で保護者を心理的に支えるほうも大切・・・
- 健診は「子どもの問題」を浮上させるのではなく，「子育て」を支えることであるはず

Research and Clinical Center for Child Development 2

研究動機（2）

- これからの乳幼児健診は精度向上だけでなく，保護者の養育上の困難さに着目し，養育者も支援するという方向が期待される
- 発達の進度に注目するだけでなく，育ち一育てられる子どもと親との関係性に目を向けた健診体制を確立したい
- 目指すは・・・
  - 養育困難に着目することで，見極めづらい発達障害や不適切な関わりの気づきが可能に！
  - 早期発見の難しいケースでもフォローが可能に！
  - 深刻だが，潜在してしまうニーズの発掘が可能に！

Research and Clinical Center for Child Development 1

研究の目的・期待される成果

- 目的
  - 健診事業において養育上の困難さを強く抱える保護者を支えるという視点に立つことのできる，実用可能な健診ツール「保護者自己記入式調査票」を開発すること
- 期待される成果
  - 保護者のストレスという観点から，支援が必要な保護者の発見，リスクの確率，支援の方針，などの情報を簡便に得ることが可能となる
    - 従来，保健師が判断していたリスクの有無について，ツールによる新たな観点を導入することが可能である
  - ツールを作成し全国に展開することにより，乳幼児健康診査における保護者への支援の質を高められる

Research and Clinical Center for Child Development 4

保護者自己記入式調査票とは？

- 健診において，保護者のストレス，という観点から支援の糸口が探索できるもの
- なぜ、ストレスという観点からか？
  - 発達を含めた子どもの育ちのこと，健診のこと，子育てのこと，社会のことはストレスに反映されるのではないか
  - 養育者が抱えている子育てにおけるストレスについてアンケート調査の先行調査（市川宏伸班長の厚生科研究，2005）から以下のことが明らかに
  - 子育ての状況，保護者自身のメンタルヘルス，健診への不安などについて，いくつかの質問でフォローと非フォローの保護者では差が出ている
  - 健診後の満足度調査の結果から，子育て作業への理解（子育ての方法や今後の見通し）と子どもに関する客観的評価（現在の発育の状況とその説明について）のバランスの良さが，高い満足度に影響している
- 保護者のストレスを健診前に簡便に把握することで，養育に関わる保健師と家族を繋げた支援の糸口が明らかになるのでは・・・

Research and Clinical Center for Child Development 5

研究デザイン

1. 養育者のストレスを検出するチェックシートを作成
   - I. 子どもの発達に関わるストレス
   - II. 子育てに関わるストレス
   - III. 養育者自身のメンタルヘルスの状況
   - IV. 子育て環境に関わるストレス
   - V. 健診受診の際のストレス
   - VI. 不適切な養育に関わるストレス
2. 三歳児健診時に養育者と保健師を対象とした質問紙調査を実施
3. 養育者の生活基礎情報，養育者の回答，保健師から得た情報，健診の結果から，健診時に試用できる質問紙を作成する
   - データマイニングの手法であるベイジアンネットワークを用いた統計解析から，養育者のリスクの確率を求めることが可能となる
   - 上記のＩからVI.までの項目の回答傾向により，支援の指針を得ることが出来る
4. 作成された質問紙を実際に健診で実施し，養育者のリスクを算定し，回答傾向から支援の指針を作成し，その有効性ついて確認を行う

Research and Clinical Center for Child Development 6

研究の実施状況（1）

平成20年度の調査から

- 対象
  - 調査協力の申し出があった全国15箇所の保健センター
  - 最小値5000人，最大値400000人，平均72800人，中央値40000人
- 自由記述調査の実施後，全自治体を訪問してヒアリングを実施
- 結果・考察（資料1を参照）
  - 健診の回数や対象者数，専門職を含めた役割分担，事後フォローの有無，連携先，などにより，健診で行う支援とその後の支援，また保健師に動き方や役割まで自治体ごとで大きく異なる：**サービスの提供の格差**
  - 「早期発見」が周囲から強く求められる中，保健師は「発見」への重圧と養育者の「発見される」心的負担に向き合うことに大きく悩んでいる：**保健師のメンタル危機**
  - 子どもの発達特性に限らず，養育者支援の必要性が年々高まる中，誰が何をどのように支援していくのかということを地域性を生かして改めて考えていかなければならない：**親支援の必然性**

Research and Clinical Center for Child Development 7

研究の実施状況（2）

- 平成21年度の実施状況
  - 平成20年度の調査結果とこれまでの先行研究をもとに，保護者自己記入式調査票の項目を作成した
    - 作成の際には医療統計学の専門家との検討を実施している
  - その調査票を試用し，前年度にヒアリング調査を行った15箇所の自治体のにて調査を実施中
  - 予定収集データ数：1000（現在650まで収集済み）
  - 調査終了次第，解析を行う予定
  - 本日は都市Ａ（データ数94）の結果を報告

Research and Clinical Center for Child Development 8

保護者自己記入式調査票項目（資料2）

- 01から08までは記入者の情報について
- 09から13までは保護者の考え方の傾向について
  （例）支援を必要としていることを表に出しにくい保護者
  （例）支援を受けた時の感じ方により，支援の形が変わる可能性も
- 14から23は保護者の子どもの行動に対するストレスを確認する質問
  - 発達支援センターを利用している保護者の方への調査（先に紹介した市川班の調査研究）から作成
  - 発達のスクリーニングではなく，保護者の感じ方を尋ねる質問
  - 子どもの大変な状況の発見が目的ではなく，それを大変と感じる保護者をフォローするための質問

Research and Clinical Center for Child Development 9

保護者自己記入式調査票項目（資料2）

- 24，31，33，36，41，42，は子育てへの不安を尋ねる質問
- 27，28，30，32，34，35，40，43，44は健診への不安を尋ねる質問
- 25，26，29，37，38，39，は子育てを取り巻く環境，支援の資源に関する質問
- 45，46，は子育ての際に不適切な関わりをせざるを得ない状況がないか尋ねる質問
- 47から52は子育ての際に養育者が子どもと良い関わりを持てているかどうかを確認する質問

Research and Clinical Center for Child Development 10

保健師が記入する付加した質問項目（資料3）

- 53と54は子どもとの関わりに関する情報
- 55は相談や支援の経験に関する情報
- 56は経済状況についての情報
- 57は健診時の保護者と保健師の関係に関する質問
- 58は結果について
- 59は対応に関しての情報

Research and Clinical Center for Child Development 11

平成22年度，今後の研究予定

- 平成22年度の予定
  - 今年度の結果を統計的に検討し，保護者自己記入式調査票の決定版を作成
    - 養育者の抱えるリスクの算出
    - ケース検討による支援の指針の提示
  - その後，追跡調査と実際の健診での試用から，その有効性について確認する（重要なものであるだけに，拙速に試用マニュアルや事例集を作成せずに有効性を地道に検証したい）
- 今後の研究計画
  - 新たに研究助成を申請し，実施自治体を全国に展開し，実施事例を収集，養育者の追跡調査を実施したい
  - これらの結果から，ツールの試用マニュアルおよび事例集を作成する

Research and Clinical Center for Child Development 12

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧

研究成果の刊行に関する一覧表

書 籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	ページ	出版年
田中康雄			支援から共生への道	慶応義塾大学出版	東京	225	2009

雑 誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻名	ページ	出版年
田中康雄	「難しい親」って、どんな親	児童心理臨時増刊	906	130-133	2009

Ⅳ．研究成果の刊行物

「難しい親」との付き合い方
――臨床の現場から

「難しい親」って、どんな親

北海道大学大学院教授
田中康雄（たなかやすお）

はじめに

学校とは、子どもが通うことで成立する空間である。親や家族は、子どもがそこに通うことを肯定し後押しする役割をもっている。つまり、学校が正しく機能するうえで子どもの参加は不可欠なことで、これは学校と親とが協力し合うことで成立する。そのために学校側は、学校の役割と状況をすべての親に理解していただくだけではなく、子どもの親の心情を理解したうえで、相互に協力し合う関係を成立させることが求められているのである。

しかし、この協力し合う関係の構築が、近年困難になってきているという指摘を、筆者は学校現場からよく聞く。同時に、相談に来られる親側からの、学校にわが子のことを理解してもらえないという声を、よく耳にする。つまり現状では「相互の良好な関係性」が構築されにくい。

「難しい親」について

「難しい親」という表現からはモンスターペアレントという言葉が連想される。これは、多賀(1)や尾木(2)が記したように、「想像を絶する無理難題や理不尽な要求を学校や教育委員会等に直接訴える」親と定義されやすいが、この言葉は人格否定の意味を含むものとして不適切であると小野田(3)は主張している。筆者も日々の臨床場面での経験から「さまざまな親の心理的背景を無視した乱暴な一括り言葉」という印象をもち、個人的には使用していない。

また、小野田(3)は、学校がやるべきことに対するまっとうな要求を要望、学校がある程度まで対応すべき要求を苦情、学校がどうにもできない要求をイチャモン（無理難題要求）と三つに分けている。こうした視点に立ち、改めて親からの要求を、ていねいに聞き取ることで、何を最優先しているのか、そしてそれは、学校として対応が可能なのかを、じっくりと検討することで、解決していくべきである。権藤(4)も、解決策としてよく話を聞くという意味で「ていねいな応対」を提唱している。

筆者が経験した事例でも、先生の話を落ち着いて聞き続けることが難しい小学一年生の男子児童の母親は、当初、クラスにもう一人の先生をつけてもらい（つまり加配措置）、わが子にさりげない注意を喚起してほしいと要求した。担任は、即座にできる、できないという返答を控え、「まず私のほうで、声かけに配慮してみます」と伝え、「今日は、算数の授業中に、数回の声かけで、だいぶ集中できました。帰ったらほめてあげてください」、「今日は、朝からどうも機嫌が悪かったのか、あまり声をかけても改まりにくかったです。月曜日はいつも、エンジンのかかりが悪いので、明日、がんばってみます」と、日々の成果をお便り帳に記し親へ報告し続けた。当然、加配の要望は親から取り下げられ、担任への信頼は厚いものとなった。

その一方で、「おかあさん、一人余計につけるほど、学校には教師は余っていません。それに私は三五人を担任しているので、ヤスオくんだけ特別に対応することはできません。どうしてもというのなら、お母さんが付いてくれますか」と言われてしまいました、という親からの報告を聞いたこともある。臨床の現場にいると、すべては、わが子のことに一生懸命な親で、そのため要求も周囲から見るとやや過剰なものであると理解できる。ゆえに「それは無理ですよ」という即座の却下は、非協力的と親からは判断されやすく、「わかってもらえていない」という思いを抱かせてしまう。

難しい親とは、教師にとって親の要求に対応しにくいという難しさでもある。そこには両者の折り合いがある。実際に、担任が替わっただけで、あるいは学校を変えただけで、わが子への取り組みが変わったという経験をした親もいる。筆者も「小学二年生のときには、何度言っても『無理です』と言われていたことが、